

診療支援局：放射線部門

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
部門長兼放射線副センター長 兼放射線治療副センター長	西池 成章
部門長代理 兼放射線治療品質管理室長	田原 大世
放射線センター担当主幹	行 正剛
救命救急センター担当主幹	相良 健司
放射線治療センター担当主幹 兼医学物理室長	前田 直子
医療安全管理主査	藤村 一郎
業務管理主査	中平 修司
医療放射線管理主査	安永 桂介
技術管理主査	常玄 大輔
医療情報管理主査	増田 慎吾
被ばく管理主査	梅木 拓哉
他スタッフ	25名

＜特色と概要＞

放射線部門は、放射線センター、放射線治療センター、および救命救急センターにおいて、診療に不可欠な放射線を用いた検査、治療、ならびに画像処理業務を日常的に遂行している。これらの業務は、各部門がその機能を果たす上で極めて重要な要素である。患者の被ばく線量については、関連法規や院内規定に基づき厳格に記録・管理されており、日々の診療における安全確保に寄与している。部門に所属する職員は診療放射線技師などの専門職であり、各々が高度な専門性を発揮して業務に従事している。また、多職種連携を重視し、円滑な情報共有や協力体制を構築することで、チーム医療の一員としての役割を果たしている。あわせて、業務効率の向上や、持続可能な職場環境の整備にも継続的に取り組んでいる。

＜実績＞

＜認定資格＞

取得資格名	人数
第1種放射線取扱主任者	8名
第1種作業環境測定士（放射性物質）	2名
衛生工学管理士	2名
医学物理士	1名
放射線治療専門放射線技師	2名
放射線治療品質管理士	2名
検診マンモグラフィ撮影認定技師	9名
乳がん検診超音波検査実施技師	1名
X線CT認定技師	7名
肺がんCT認定技師	3名
医療情報技師	4名
医療画像情報専門技師	1名
医療画像情報精度管理士	4名
画像等手術支援認定診療放射線技師	1名
臨床実習指導教員	5名
放射線管理士	1名

放射線機器管理士	1名
救急撮影認定技師	11名
血管撮影インターベンション専門診療放射線技師	2名
A i 認定診療放射線技師	1名
磁気共鳴専門技術者	1名
核医学専門技師	1名
放射性医薬品取り扱いガイドライン講習会 受講	5名
日本DMAT	1名
大阪DMAT	3名
告示研修（厚生労働省第273号）実技研修修了者	33名

＜今年度の成果と来年度への抱負＞

今年度は、造影検査における安全管理体制の強化を目的に「造影剤副作用カード」の運用を開始した。中等症以上の副作用歴を有する患者を対象にカードを発行することで、患者・スタッフ間での確実な情報共有を図るとともに、副作用情報を電子カルテおよびRISのコメント欄へ反映し、全診療科での横断的な情報共有を徹底した。これにより、造影剤の使用可否を迅速かつ的確に判断できる体制を確立している。

核医学部門においては、GE社製の核医学装置を新たに導入した。画質の向上および解析機能の拡充により、診断能の大幅な向上を実現している。3月には装置習熟や撮影プロトコルの移行に関する専門トレーニングを修了し、円滑な運用体制を整備した。

医療機器の維持管理については、定期点検の徹底により安定した稼働状況を維持しているが、一部基幹機器の経年劣化が今後の重要課題である。今後は中長期的な視点に基づき機器の更新計画を策定し、最新の医療技術を継続して提供できる体制を維持する。

来年度は、高度化する医療技術へ確実に対応するため研修体制をさらに充実させ、部門全体の専門性と安全意識の底上げを図る。あわせて、多職種との連携をより一層深化させ、強固なチーム医療を通じて患者に寄り添った質の高い放射線診療の提供を目指す。